

きたみらい酪農振興協議会

設 立 平成15年2月27日
会員数 120名
会 長 中島 英樹

主なできごと

2013.4.23	第10回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2013.7.20	第10回JAきたみらい乳牛共進会(合併記念事業併催)
2013.8.18	第63回北見管内総合家畜共進会
2013.8.19~20	先進地視察研修会(中標津町・別海町)
2013.9.28~29	2013北海道ホルスタインナショナルショウ
2013.11.20	酪農女性の8地区昼食交流会
2014.3.18	きたみらい酪農セミナー
2014.4.23	第11回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2014.7.19	第11回JAきたみらい乳牛共進会
2014.8.19~20	先進地視察研修会(新得町・千歳市)
2014.8.30	第64回北見管内総合家畜共進会
2014.9.27~28	2014北海道ホルスタインナショナルショウ
2014.11.8	酪農女性の8地区昼食交流会
2015.2.20	オホーツク酪農畜産研修会(農林水産省との意見交換会)
2015.3.10	きたみらい酪農振興協議会臨時総代会
2015.3.18	きたみらい酪農セミナー
2015.4.23	第12回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2015.7.18	第12回JAきたみらい乳牛共進会
2015.8.18~19	先進地視察研修会(別海町・中標津町)
2015.8.27	第65回北見管内総合家畜共進会
2015.9.19~20	2015北海道ホルスタインナショナルショウ
2015.10.23~26	第14回全日本ホルスタイン共進会
2015.10.30	酪農女性の8地区昼食交流会
2016.3.16	きたみらい酪農セミナー
2016.4.22	第13回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2016.7.16	第13回JAきたみらい乳牛共進会
2016.8.27	第66回北見管内総合家畜共進会
2016.9.24~25	2016北海道ホルスタインナショナルショウ
2017.1.25	酪農女性の8地区昼食交流会
2017.3.16	きたみらい酪農セミナー
2017.3.29	常勤との懇談会
2017.4.24	第14回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2017.6.7~8	先進地視察研修会(南シントクアユミル・(有)小林牧場)
2017.7.15	第14回JAきたみらい乳牛共進会
2017.8.26	第67回北見管内総合家畜共進会
2017.9.23~24	2017北海道ホルスタインナショナルショウ
2018.1.19	酪農女性の8地区昼食交流会
2018.3.26	常勤との懇談会
2018.3.28	きたみらい酪農セミナー
2018.4.23	第15回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2018.6.7~8	先進地視察研修会(サンエイ牧場・鹿追町環境保全センター)
2018.7.21	第15回JAきたみらい乳牛共進会
2018.8.25	第68回北見管内総合家畜共進会
2018.11.16	常勤理事との懇談(停電災害関連)
2019.1.16	酪農女性の8地区昼食交流会
2019.3.22	きたみらい酪農セミナー
2019.4.23	第16回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2019.6.6	哺育育成センター役員との懇談会
2019.7.20	第16回JAきたみらい乳牛共進会
2019.8.23	第69回北見管内総合家畜共進会
2019.9.28~29	2019北海道ホルスタインナショナルショウ
2019.11.14~15	先進地視察研修会
2020.1.16	酪農女性の8地区昼食交流会
2020.4.24	第17回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2020.5.27	牛乳券寄贈(一市二町、小中学校)
2020.11.17	常勤役員との懇談会
2020.11.30	牛乳プリン寄贈(一市二町、小中学校)
2021.4.23	第18回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2021.11.9~18	牛乳券寄贈(一市二町、小中学校)
2021.11.11~12	乳製品寄贈(北見工業大学)
2021.12.3	乳製品寄贈(日本赤十字北海道看護大学)
2022.1.7	常勤役員との懇談会
2022.1.13	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2022.3.24	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2022.4.22	第19回きたみらい酪農振興協議会通常総代会
2022.6.9	生乳生産目標数量にかかる経過説明会
2022.7.19	第19回JAきたみらい乳牛共進会
2022.8.18	第70回北見管内総合家畜共進会
2022.9.24~25	2022北海道ホルスタインナショナルショウ
2022.10.24	常勤役員との懇談会
2022.12.22~23	乳製品寄贈(北見工業大学)
2022.12.26~27	乳製品寄贈(日本赤十字北海道看護大学)
2023.1.12	牛乳消費キャンペーン(牛乳配布1,650本)
2023.3.7	きたみらい酪農セミナー
2023.3.18	北海道酪農・畜産危機突破緊急集会(札幌市)

「きたみらい酪農のみらいへ」

きたみらい酪農振興協議会
会 長 中島 英樹

8農協の合併に伴って、酪農組織も一つの方向性を持たせるべく当協議会が出来て20年が経過しました。最初の10年は、きたみらい酪農としてのアイデンティティを持つべく、ハード面を前面に出し、合併農協としての可能性を求心力にして組織形成に努めた期間だったように思います。そして、20年目を迎えたこの10年は純粋なきたみらい酪農を担う人材の育成に費やされた期間ではないかと思っています。20年という月日は各経営での世代交代を進め、酪農後継者で構成される酪農青年部の役員経験者が、現在の当協議会の中心メンバーになりつつあります。長いスパンで見ると、生乳需給の逼迫・緩和や、生産資材の高騰・乳価の下落等の波は繰り返し、その都度、戸数の減少は続くのかもしれませんが、しかし、優秀な人材が揃っていれば、どんな難局も乗り越えていってくれるはずです。次の10年で回顧したとき、そこに何が詰まっているのかを楽しみに日々、牛と向き合っていきたいと思っています。



会 長 中島 英樹



副会長 渡辺 克夫



副会長 小山 勇樹

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	温	伊藤 稔	温	伊藤 稔	温	伊藤 稔	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	端	中島英樹
副会長	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	置	溝井雅幸	訓	高倉昌勝	訓	高倉昌勝	訓	渡辺克夫
	訓	高倉昌勝	訓	高倉昌勝	訓	高倉昌勝	端	中島英樹	端	中島英樹	置	倉本秀樹
理 事	北	阿部高久	留	井上啓一	端	村岡 勉	温	村井 稔	温	村井 稔	温	村井 稔
	留	井上啓一	端	村岡 勉	相	小野光則	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一
	端	村岡 勉	相	小野光則	北	沢野修三	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣
	相	小野光則	上	林 孝徳	置	中村克信	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	永井一好
	上	林 孝徳	北	沢野修三	訓	浜野和弘	置	中村克信	置	中村克信	置	小山勇樹
	訓	大塚正夫	置	中村克信								
	置	小嶋春夫	訓	浜野和弘								
代表監事	温	中沢 弘	温	村井 稔	置	坂本了一	温	山梨一将	温	山梨一将	温	山梨一将
監 事	置	佐藤正光	置	坂本了一	温	村井 稔	訓	梶田直樹	訓	梶田直樹	置	竹内 進
会員数	183名		172名		165名		157名		151名		144名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹	端	中島英樹
副会長	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫	訓	渡辺克夫
	置	倉本秀樹	置	倉本秀樹	置	倉本秀樹	置	小山勇樹	置	小山勇樹
理 事	温	村井 稔	温	村井 稔	温	村井 稔	温	村井 稔	温	村井 稔
	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一
	上	神田典廣	訓	永井一好	訓	永井一好	訓	永井一好	訓	永井一好
	訓	永井一好	置	小山勇樹	置	小山勇樹	置	佐藤 猛	置	佐藤 猛
	置	小山勇樹	相	粕 憲彦	相	粕 憲彦				
代表監事	温	山梨一将	訓	浜野利治	訓	浜野利治	北	山内 誠	北	山内 誠
監 事	置	竹内 進	北	山内 誠	北	山内 誠	置	安藤正文	置	安藤正文
会員数	140名		133名		128名		125名		120名	

平成25年度

第8期生乳安定生産対策(H24～26年)により、増産体制を基本(前年対比103%の設定)としていたが、実績乳量91,117tと前年実績対比98.2%となった。JA合併10周年記念事業と併催された、JAきたみらい乳牛共進会については、酪農経営の発展に寄与する共進会となり、出品頭数96頭と盛大な共進会となった。



盛大に開催されたJA合併10周年記念共進会

平成26年度

植生改善の取組として、簡易更新機・追播機6台を新たに購入し、急激な円安の進行や飼料用穀物相場の高値推移等による生産拡大意欲の減退と生産基盤の弱体化を阻止することを目的として導入。また、生産基盤の脆弱を招かぬよう、牛群の効率的な増頭による生産基盤の強化、生産性の向上に資することを目的に「生乳増産対策事業」にも取り組んだ。



牧草の収穫作業

平成27年度

5年に1度開催される全日本ホルスタイン共進会がこの年に行われ、JAきたみらいから出品した牛が、ホルスタイン種未経産牛の中でも最高位となる「名誉賞」を受賞し、JAきたみらいの乳牛改良技術の高さを示すことができた。畜産農家・地域の関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するための体制である「畜産クラスター事業」がこの年から始まった。



未経産最高位「名誉賞牛」

平成28年度

初妊牛1頭当たりの平均価格が100万円に迫るなど個体取引価格が高騰し、廃用牛や初生トクでも年間通じて通常の6～8割増しで推移した。全道共進会に於いては、1等賞入賞牛が11頭。さらにはジュニアカップではチャンピオン獲得と素晴らしい成績を収めた。



高価格取引されるセリの様子

平成29年度

年間の旺盛な需要に対する乳牛資源不足が初妊牛価格の暴騰に拍車をかけ前年同様高値で推移した状況となった。生乳取引価格については、プール乳価が引き上げとなり、税込み100円/kgを上回り、北海道農協酪農・畜産対策本部委員会が掲げる酪農家の所得目標「生乳1kg当たり30円以上」も達成可能な状況となった。



低温殺菌のきたみらい牛乳

平成30年度

平成30年9月6日に胆振東部を震源とする地震が起き、全道各地で大規模停電(ブラックアウト)が発生した。当JAでも551tの生乳を廃棄する事態となり、国・道・市・町・JAも加わり発電機・配電盤の導入事業を行い不測の事態への整備を行った。畜安法が一部改正され補給金交付対象の拡大や新たに集送乳調整金の交付が行われた。



各酪農家へ設置されている発電機

令和1年度

全道共進会に於いて1等賞入賞牛が6頭となり、さらにはリザーブインターミディエイトチャンピオンに輝くなど素晴らしい成績を収めた。令和2年1月頃に発生した新型コロナウイルスの感染が各地で拡がりをみせ、3月に予定していた酪農セミナーが中止となった。他にもインバウンド等の減少により生乳需給のバランスが一気に崩れるなど酪農情勢の厳しい環境が始まった。



リザーブインターミディエイトチャンピオン牛を囲んでの記念写真

令和2年度

新型コロナウイルス蔓延により、緊急事態宣言の発出・小中学校の休校措置に伴う学給飲用乳の停止。当振興会でも例年行われていた振興会行事が全て中止となった。そういった状況下でも、牛乳・乳製品の消費拡大や需要喚起の目的で、医療・福祉施設へのきたみらい牛乳の寄贈や一市二町の小中学校全生徒へ牛乳券の配布と牛乳プリンの配布を行った。R2年4月よりホクレントラック加盟による家畜輸送事業を開始した。



きたみらい牛乳を飲む小学生

令和3年度

新型コロナウイルスの影響は収まらず、人流抑制や外出自粛などを強いられ、生乳・乳製品の消費減退が進み、乳製品の在庫が積み増すという状況に陥った。その中で北海道の生産者自ら80億円の出口対策を提出。前年に引き続き各行事が中止となったことで予算を消費拡大事業に振り替え、一市二町の小中高生へ牛乳券の配布や北見工大・北見看護大生へ乳製品の詰め合わせを提供した。



北見工大・北見看護大の生徒へ乳製品の寄贈

令和4年度

令和4年度から生産抑制型(令和3年度生産目標数量の101%を全道目標数量)を取り、特にペナルティを設けず全道で目標達成に取り組む「運動」という形となった。コロナ禍で中止となっていた振興会行事も一部再開(きたみらい乳牛共進会・酪農セミナー)し、畜産振興対策として乳質向上支援対策に取り組んだ。



中島会長の「牛乳チャレンジ」

きたみらい酪農青年部

設 立 平成21年4月27日
部員数 52名
部 長 中澤 孝弘

主なできごと

2013.4.8	第5回きたみらい酪農青年部通常総会
2013.4.8	講習会（留辺蘂産地地区コントラクター事業）
2013.4.18	上常呂・北見・端野地区部員交流会
2013.6.8	現地研修会（神田牧場）
2013.7.19	生産者交流会（共進会前夜）
2013.11.18	道内視察研修（2日間：14人参加～当別町・安平町）
2014.1.16	上常呂・北見・端野地区部員交流会
2014.1.20	温根湯・留辺蘂・相内地区部員交流会
2014.1.29	冬期講習会（ヨーロッパの酪農情勢）
2014.3.7	春の部員交流会
2014.4.4	第6回きたみらい酪農青年部通常総会
2014.4.4	講習会（草地の更新と維持管理）
2014.4.15	現地研修会（大塚牧場）
2014.7.18	生産者交流会（共進会前夜）
2014.11.6	道内視察研修（2日間：12人参加～富良野市・千歳市）
2015.1.30	冬期講習会（牛が求める飼料法・時期と間隔について）
2015.2.14	海外酪農視察研修（11日間：15人参加～フランス）
2015.3.6	春の部員交流会
2015.4.2	第7回きたみらい酪農青年部通常総会
2015.4.2	報告会（海外酪農視察研修）
2015.4.18	現地研修会（溝井牧場）
2015.7.17	生産者交流会（共進会前夜）
2015.11.16	道内視察研修（2日間：18人参加～豊頃町・士幌町）
2016.1.29	冬期講習会（IT農業と農業経営について）
2016.3.6	春の部員交流会
2016.4.2	第8回きたみらい酪農青年部通常総会
2016.4.28	現地研修会（小山牧場）
2016.7.15	生産者交流会（共進会前夜）
2016.11.10	道内視察研修（2日間：7人参加～札幌市）
2017.1.27	冬期講習会（受胎率と乾乳の関係について）
2017.3.10	春の部員交流会
2017.4.7	第9回きたみらい酪農青年部通常総会
2017.4.20	現地研修会（高倉牧場・（株）ニューパーチファーム）
2017.7.14	生産者交流会（共進会前夜）
2017.11.20	道内視察研修（2日間：18人参加～札幌市）
2018.1.22	冬期講習会（乳検情報の活用法）
2018.3.5	春の部員交流会
2018.4.3	第10回きたみらい酪農青年部通常総会
2018.4.3	講習会（ジェット微細噴霧機ブルスフォグを使用した害虫対策と肺炎対策）
2018.4.24	現地研修会（農事組合法人瑞穂）
2018.6.2	アンケート調査（活動に関する）を実施
2018.7.20	生産者交流会（共進会前夜）
2018.11.20	道内視察研修（2日間：16人参加～浜中町・中標津町）
2019.1.18	冬期講習会（酪農経営のイロハ）
2019.4.3	第11回きたみらい酪農青年部通常総会
2019.4.3	設立10周年記念式典
2019.4.22	現地研修会（ホクレン訓子府実証農場）
2019.7.19	生産者交流会（共進会前夜）
2020.4.9	第12回きたみらい酪農青年部通常総会
2021.4.8	第13回きたみらい酪農青年部通常総会
2021.4.27	現地研修会（野里牧場）
2022.4.11	第14回きたみらい酪農青年部通常総会
2022.11.17	道内視察研修（2日間：8人参加～音更町・帯広市）
2023.2.24	冬期講習会（酪農における農作業事故）
2023.3.8	牛乳消費拡大運動
2023.3.16	春の部員交流会

地域の垣根を超えた「きたみらい」

きたみらい酪農青年部

部 長 中澤 孝弘

きたみらい農業協同組合の設立20周年、誠におめでとうございます。平成15年2月に設立されて以来、様々な課題に対応し、尽力されてきたことでしょう。

当青年部は、平成21年4月の設立以来、酪農振興の発展並びに酪農経営の資質向上、酪農青年相互の広域的交流を目指し、活動を行ってきました。しかし、昨今起きた新型コロナウイルスの影響は強く、各種事業の中止や物資の高騰、更には部員数の減少により、数年前と比較し、計画も大幅に修正せざるを得ない現状です。

そのような中でも、研修会、交流事業や講習会といった地域の垣根を越えた、次代の担い手としての育成、成長を目指した活動を行えることは、ひとえに当青年部に対するJAきたみらいからの多大なるご支援、ご協力があったからこそ強く感じ入り、感謝申し上げます。

世界情勢の影響に右往左往する現状で、取り巻く環境は厳しく、多くの壁にこれからの当てもありませんが、当組織活動で得た知識や経験を活かし仲間と共に乗り越えることで、「きたみらい」に名を表現していく所存です。

最後に、記念誌の発刊、編集に携わった方々に心から敬意と感謝を申し上げますと共に、きたみらい農業協同組合の更なるご活躍、ご発展を祈念しましてお祝いの言葉といたします。



部長 中澤 孝弘



副部長 野里 智也



副部長 南 祐司

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	相	粕 憲彦	相	粕 憲彦	置	佐藤 猛	置	佐藤 猛	相	大橋保登士	相	大橋保登士
副部長	置	佐藤 猛	置	佐藤 猛	訓	織田 賢	訓	織田 賢	訓	相馬広治	訓	相馬広治
	北	阿部哲也	北	阿部哲也	端	佐藤友哉	端	佐藤友哉	北	織田竜徳	北	織田竜徳
理 事	温	真野泰侑	温	真野泰侑	相	大橋保登士	相	大橋保登士	置	片桐敏史	置	片桐敏史
	訓	織田 賢	訓	織田 賢	置	奥山貴敏	置	奥山貴敏	置	野里智也	置	野里智也
	端	佐藤友哉	端	佐藤友哉	北	織田竜徳	北	織田竜徳	訓	今野友樹	訓	今野友樹
監 事	置	小山勇樹	置	小山勇樹	温	真野泰侑	温	真野泰侑	温	伊藤俊弘	温	伊藤俊弘
	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	相馬広治	訓	相馬広治	端	永沢敏章	端	永沢敏章
部員数	81名		79名		81名		78名		79名		78名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
部 長	訓	相馬広治	訓	相馬広治	置	片桐敏史	置	片桐敏史	温	中澤孝弘
副部長	置	片桐敏史	置	片桐敏史	温	中澤孝弘	温	中澤孝弘	置	野里智也
	端	永沢敏章	端	永沢敏章	置	野里智也	置	野里智也	訓	南 祐司
理 事	温	中澤孝弘	温	中澤孝弘	留	山田和義	留	山田和義	置	畠中清貴
	訓	今野友樹	訓	今野友樹	訓	南 祐司	訓	南 祐司	訓	大塚陽太
	上	枝広慎吾	上	枝広慎吾	北	上野秀俊	北	上野秀俊	北	上野秀俊
監 事	相	大橋保登士	相	大橋保登士	訓	相馬広治	訓	相馬広治	留	山田和義
	置	野里智也	置	野里智也	端	佐藤達典	端	佐藤達典	端	佐藤達典
部員数	74名		69名		63名		58名		52名	

平成25年度

TPP交渉において、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、我々きたみらい酪農青年部役員も、関係機関・団体と連携を図り、各種運動に積極的に参加した。6月には現地研修会が行われ、神田牧場を視察した。



現地研修会

平成26年度

乳価は4年連続の値上がりとなったが、配合飼料や生産資材の高止まりもあり、酪農業を取り巻く環境は厳しい状況であった。海外酪農業視察研修が行われ、15名の部員が参加した。酪農先進国の状況を肌で感じ、個々の経営に反映させる有意義な研修となった。



海外視察研修

平成27年度

TPPに関する問題については、交渉大筋合意が発表された。酪農経営には厳しい内容になっており、将来への不安は拭えない状況であった。1月には冬期講習会が行われ、【IT農業と農業経営】について講演していただいた。



冬期講習会

平成28年度

4月には現地研修会が行われ、小山牧場を視察した。春先の低温や異常気象により、1番牧草の収量減少やデントコーンサイレージの収穫が遅延となり、大変苦勞の多い収穫作業となった。



現地研修会

平成29年度

乳牛資源不足が初妊牛価格暴騰に拍車をかけ、肉用牛についても、出回り頭数が少なかった事もあり、高値で推移した年となった。11月には道内視察研修が行われ、(株)Kalm角山、エム・エス・ケー農業機械(株)を視察した。



道内視察研修

平成30年度

7月には共進会前夜生産者交流会が行われ、大勢の方にご参加いただいた。9月には全道が一斉に停電するブラックアウトによって、搾乳作業や乳業工場がストップし、自家廃棄せざるを得ない状況となった。



共進会前夜生産者交流会

令和1年度

きたみらい全体の生産乳量は、ブラックアウトによる生乳廃棄の影響もあるが、酪農家戸々における増産への積極的な取り組みにより、前年度実績を上回った。設立10周年記念式典が執り行われ、歴代部長の表彰が行われた。



10周年記念式典

令和2年度

新型コロナウイルスの影響により、計画していた活動を行うことが出来なかった。総会についても、書面議決にて執り行うなど前例のない年となった。



放牧風景

令和3年度

新型コロナウイルスの影響を受けながらも、2年ぶりに現地研修会が行われ、野里牧場を視察した。その他の活動については、行うことが出来なかった。



現地研修会

令和4年度

新型コロナウイルスによる規制が徐々に解除されたことから、当青年部では3年ぶりに道内視察研修が行われた。また、新たな取り組みとして、牛乳消費拡大運動を行った。消費者へ直接呼びかけを行える良い機会となった。



牛乳消費拡大運動

きたみらい黒毛和牛振興会

設 立 平成16年4月2日
会 員 数 18名
会 長 木島 作治郎

主なできごと

2013.4.9	第10回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2013.6.4~	視察研修会（（有）神内ファーム21・南北道畜産市場）
2014.3.13	平成25年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2014.4.9	第11回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2014.6.18~	視察研修会（十勝地区畜産市場 千葉牧場）
2014.7.26	第64回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸2頭出品
2015.1.30~	和牛生産農家後継者研修会
2015.3.11	平成26年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2015.4.10	第12回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2015.6.3~	視察研修会（南北道畜産市場 酪農学園肉畜生産ステーション肉牛農場）
2015.7.24	第65回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸4頭出品
2015.9.7	北海道肉用牛共進会 1戸1頭出品
2016.3.30	平成27年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2016.4.8	第13回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2016.6.8~	視察研修会 （（株）十勝畜産人工授精所・（一社）ジェネティクス北海道十勝北見事業所・三原牧場）
2016.7.22	第66回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 3戸8頭出品
2017.1.30~	和牛生産農家後継者研修会
2017.3.18	平成28年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2017.3.24	（一社）家畜改良事業団種雄牛成績報告会
2017.4.18	第14回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2017.5.21	（株）未来ファーム施設見学会
2017.6.1~	視察研修会（前田牧場 ウェムラ牧場）
2017.7.21	第67回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸4頭出品
2017.10.30	（一社）家畜改良事業団種雄牛成績報告会
2017.11.4	北海道枝肉勉強会
2017.12.21~	平成29年度和牛振興委員研修会
2018.3.9	平成29年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2018.4.12	第15回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2018.6.13~	視察研修会（（一社）ジェネティクス北海道・白勢牧場）
2018.7.27	第68回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸2頭出品
2019.1.23~	北見管内黒毛和牛振興協議会役員研修（群馬県・東京都）
2019.3.8	平成30年度北見管内黒毛和牛振興協議会研修会
2019.3.11	北見管内黒毛和牛振興協議会後継者研修会
2019.4.22	第16回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2019.6.11~	視察研修会（十勝地区畜産市場・AGジャパン）
2019.7.18	第69回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸2頭出品
2019.12.13~	鹿児島県 授精所訪問
2020.4.28	第17回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会（書面議決）
2020.11.27	北海道産和牛消費拡大に向けた取組（取り纏め）
2021.4.7	第18回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2021.8.11	北海道産和牛消費拡大に向けた取組（取り纏め）
2021.11.10	北見管内黒毛和牛振興協議会 和牛審査会
2022.4.7	第19回きたみらい黒毛和牛振興会通常総会
2022.7.21	北見管内黒毛和牛振興協議会 毛刈り講習会
2022.7.22	第70回北見管内総合家畜共進会（肉牛の部） 1戸4頭出品
2022.10.7~	第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会 視察
2022.12.23	北海道産和牛消費拡大に向けた取組（取り纏め）

きたみらいブランド確立を目指して

きたみらい黒毛和牛振興会

会 長 木島 作治郎

JAきたみらいの設立20周年に、心よりお慶び申し上げます。

日頃より当振興会に対し、JAをはじめ関係機関、会員の皆様には格別なるご指導ご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

この10年間は私たちにとって激動の10年となりました。平成24年頃から上昇を始めた黒毛素牛全国平均価格は高騰を続け、取引頭数の減少が要因となり、平成28年には過去に例のない高値となりました。繁殖農家の経営として助かる反面、素牛を購入して頂ける肥育農家あつての自分達だということを考えると複雑な心境でした。令和2年初めからは猛威を振るった新型コロナウイルスの影響や、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により不安定な枝肉相場、配合飼料を始めとする生産費用の高騰により、畜産経営は大変厳しいものとなっています。

情勢が日々変化する中で私たち繁殖農家が取り組むべきことは、「肥育農家に歓迎される素牛づくり」です。当振興会として黒毛素牛のきたみらいブランド確立に向けて平成26年より「新規種雄牛精液早期確保事業」取り組み、他にも市場上場時の削蹄の実施など、肥育農家に素牛を選んで頂けるような取り組みを行っています。今後も、肥育農家や消費者に選んでいただける牛づくりを会員一同心掛けていきます。

最後に、JAきたみらいの益々のご発展を祈念しまして、挨拶とさせていただきます。



会 長 木島 作治郎



副会長 安 孝志

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	相	島尻 勝	相	島尻 勝	相	島尻 勝	相	島尻 勝	相	島尻 勝	留	今部直廣
副会長	北	元木一弥	北	元木一弥	北	元木一弥	留	藤田敏秋	留	藤田敏秋	訓	木島作治郎
理 事	端	中野克巳	置	河野昌吉	置	河野昌吉	置	河野昌吉	置	河野昌吉	置	河野昌吉
	留	藤田敏秋	訓	木島作治郎	訓	木島作治郎	北	平塚 久	北	平塚 久	北	平塚 久
監 事	置	河野昌吉	端	中野克巳	端	中野克巳	訓	木島作治郎	訓	木島作治郎	相	島尻 勝
	訓	竹本竜也	留	藤田敏秋	留	藤田敏秋	端	村岡 勉	端	村岡 勉	端	村岡 勉
会員数	19名		20名		21名		18名		19名		18名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	留	今部直廣	訓	木島作治郎	訓	木島作治郎	訓	木島作治郎	訓	木島作治郎
副会長	訓	木島作治郎	置	安 孝志	置	安 孝志	置	安 孝志	置	安 孝志
理 事	置	河野昌吉	北	平塚 久	北	平塚 久	留	藤田稔彦	留	藤田稔彦
	北	平塚 久	端	齋藤隆文	端	齋藤隆文				
監 事	相	島尻 勝	留	今部直恒	留	今部直恒	留	今部直恒	留	今部直恒
	端	村岡 勉	相	島尻 勝	相	島尻 勝	端	齋藤隆文	端	齋藤隆文
会員数	19名		20名		20名		17名		18名	

平成25年度

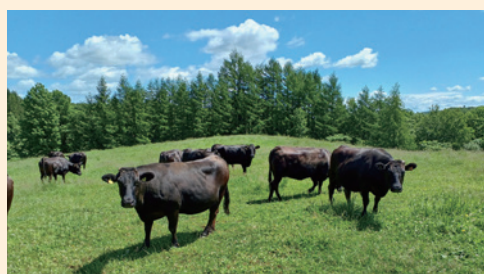
全国の黒毛和種素牛取引価格は、頭数不足を背景に上位50市場で前年を上回る結果となり、平成19年以来の高値となった。「安福久」が全国的に人気となり、「安福久」が多く出品される鹿児島県薩摩中央家畜市場が平均価格1位となった。6月に視察研修を実施し、農業生産法人(株)神内ファーム21・ホクレン南北海道家畜市場を視察した。



第64回北見管内総合家畜共進会（肉用牛の部）

平成26年度

新規選抜種雄牛の精液を生産者に円滑に供給する事を目的に、各授精所団体から協力を頂き、優良種雄牛精液早期確保事業を開始。多くの情報やデータを活用して、市場での有利販売に向けて取組を行った。6月には十勝地区家畜市場・千葉牧場を視察した。



放牧する繁殖雌牛

平成27年度

10月に大筋合意に至ったTPP交渉では、牛肉関税38.5%の完全撤廃は免れたものの最終関税率が9%となる事で将来への不安は拭えない状況となった。訓子府町において開催された第65回北見管内総合家畜共進会（肉用牛の部）では1戸1頭が全道共進会出品の権利を得て、安平町で開催された第31回北海道肉用牛共進会に出品した。



北海道肉用牛共進会（安平町）

平成28年度

全国の繁殖雌牛頭数は、平成22年の684千頭をピークに、平成27年には580千頭まで減少した。資源不足の影響から平成28年の黒毛素牛平均価格は過去最高値となり、生産基盤強化に向けた対策が実施された。6月には(株)十勝家畜人工授精所・(一社)ジェネティクス北海道十勝北見事業所・三原牧場の視察を行った。



先進地視察研修（足寄町）

平成29年度

全国の家畜市場で取引された黒毛和種素牛の頭数は30万9,778頭で、統計記録が残る平成7年以降最少となった。口蹄疫、東日本大震災の影響により生産基盤が回復していない事に加え、高齢化による離農も要因となっており、5年連続の取引頭数減少となった。しかし、飼養戸数が減る一方、繁殖雌牛頭数は増加しており、一戸当たりの大規模化が進み、今後の素牛取引頭数の増加が期待された。



ホクレン北見家畜市場で行われるセリの様子

平成30年度

前年まで5年連続で減少を続けていた黒毛和種素牛取引頭数は、生産基盤強化対策や受精卵の活用などにより増加に転じ、繁殖雌牛頭数は平成25年以來の600千頭にまで回復し、更なる取引頭数の増加が期待された。9月に開催を予定していた第17回北海道総合畜産共進会（肉用牛部門）は胆振東部地震の影響により中止となった。



先進地視察研修（一社 ジェネティクス北海道）

令和1年度

和牛の生産量を平成30年度の14.9万トンから令和17年度に30万トンに増やす政策目標が「農業生産基盤強化プログラム」の中で設定され、繁殖雌牛の増頭や黒毛和牛受精卵の活用等黒毛和牛の生産拡大が推進された。12月には黒毛繁殖雌牛飼養頭数・肥育牛飼養頭数全国一の鹿児島県を訪問し、授精所や家畜市場等、黒毛和牛の本場を視察した。



鹿児島県で飼養されている種雄牛

令和2年度

新型コロナウイルスの影響を受け、国内外食需要、インバウンド需要の低下により枝肉価格が一時下落、それに伴い素牛価格も下落する事となった。その後、和牛肉保管在庫支援緊急対策事業等の対策によって牛肉の流通事情は好転し、枝肉相場はコロナ禍前と同等の水準まで早期に回復する事ができた。当振興会は計画していた事業の多くを中止する事となったが、北海道産和牛消費拡大運動に取組み、多くの会員から協力を頂いた。



飲食店で提供される黒毛和牛肉

令和3年度

依然として新型コロナウイルスの影響により、振興会事業や共進会等の行事が中止となった。世界的なコロナ禍が続く中であっても牛肉輸出量は11年連続で増加し、令和3年は前年比62.6%増となった。国内についても巣ごもり需要の高まりにより、枝肉価格は堅調に推移した。



公共牧場への入牧の様子

令和4年度

感染力の強い新型コロナウイルス変異株出現の影響により、外食需要は伸び悩み、1年を通して枝肉価格が前年よりも値下げとなった。年末にかけて少しずつ経済活動が活発化し、12月の枝肉価格はコロナ前を上回る水準まで回復したが、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響により、配合飼料価格や資材費の高騰等、畜産経営は大変厳しい状況となった。10月には「第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会」が開催され、和牛の素晴らしさを示す機会となった。



第12回全国和牛能力共進会（鹿児島県）

きたみらい馬産振興会

設 立 平成16年4月16日
会 員 数 9名
会 長 岩 渕 文 雄

主なできごと

2013.12.1.~2	馬産振興会視察研修（家畜改良センター）
2013.12.7~8	きたみらい生産者組織連絡協議会 細川氏参加
2014.4.17	現地研修会（岩渕・細川氏見学）
2014.9.6~7	馬産振興会視察研修（帯広競馬場）
2014.9.6~7	北海道総合家畜共進会 林氏 2頭出陣
2015.3.22	優良農用馬生産者表彰 林茂氏・伊藤勝幸氏
2015.10.19	TPP合意に向けた北海道ブロック意見交換会
2016.3.29	現地研修会（岩渕・細川・久田氏見学）
2016.10.25	十勝種畜牧場種離馬引き渡し（佐々木氏）
2016.11.17	現地研修会（林・佐々木氏）
2016.11.22	きたみらい 収穫感謝祭 岩渕氏参加
2016.12.17	きたみらい生産者組織連絡協議会 岩渕氏参加
2017.2.15	レットダイヤ配置馬 現地状況調査岩渕氏参加
2017.7.20~21	北海道総合家畜共進会 視察研修
2017.12.17	きたみらい生産者組織連絡協議会 岩渕氏参加
2018.11.19	農用馬生産技術研修会及び多産場表彰札幌 岩渕・細川氏
2019.2.8	レットダイヤ配置馬 現地状況調査岩渕氏参加
2019.2.12	ホクショウゼウス配置 （細川氏）
2019.9.7~8	北海道総合家畜共進会 視察研修
2019.11.18	生産技術研修会 細川氏
2020.4.6	第17回きたみらい馬産振興会通常総会 （コロナ対策の為書面議決）
2021.4.5	第18回きたみらい馬産振興会通常総会 （コロナ対策の為書面議決）
2021.8.6	ホクショウゼウス配置馬事故報告 （細川氏）
2022.4.18	第19回きたみらい馬産振興会通常総会 （コロナ対策の為書面議決）
2022.2.21	種離馬貸付 （カネサヒロイン）細川氏参加
2022.3.22	種雄馬貸付 （ココノタカラ）細川氏参加

オホーツクの馬産地確立に向けて

きたみらい馬産振興会
会 長 岩 渕 文 雄

JAきたみらい設立20周年を迎えられました事に、馬産振興会を代表し心からお喜び申し上げます。

平素より当会に格別なるご理解ご協力賜り有難うございます。近年、当振興会も会員の減少及び高齢化が進み厳しい状況下ではありますが、きたみらい産駒の十勝ばんえい競馬での活躍も見受けられ素晴らしい成果と思います。

振興会発足当時は、20名程の会員がおり各地で馬を見ることが出来ましたが現在では5戸の生産者しか残っておらず今後、地域確立が厳しくなりつつあります。過去を振り返りますと、道内においてばん馬開催が帯広・岩見沢・北見を周り大きな盛り上がりを見せておりましたが、景気・経済の低迷となり各地域の開催存続が出来ず現在は帯広のみの開催となったものの、インターネット普及等やコロナ禍による約3年程の巣籠等もありばんえい競馬の売り上げは右肩上がりで、シーズンを通して約550億円を超える売り上げ状況となっております。道内全体においても馬産地と言える地域が減少し道内馬市場開催も回数が減り、市場上場頭数も減少し重種馬より小格馬の割合が年々増えてきている状況下です。市場における馬販売は、主に府県特に九州地域向けの馬肉向けが多く近年は、海外からの輸入物等も減少傾向にあり道内市場における販売価格に大きなチャンスが訪れ高い価格で取引されております。

地域内でも地方競馬全国協会の各種事業に申請したり、優良雌馬・雄馬の貸付事業も取り組み改良更新にも力を注いでおります。今後も様々な状況下に置かれる事と思いますが、各関係機関のご協力を賜り出来る限り地域内から馬を絶やさないように邁進して参ります。



会 長 岩 渕 文 雄



副会長 佐々木 博

役員一覧

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	相	細川貞夫	相	細川貞夫	相	細川貞夫	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄
副会長	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	置	佐々木 博	置	佐々木 博	置	佐々木 博
理 事	相	久田公氣	相	久田公氣	相	久田公氣	相	細川弘則	相	細川弘則	相	細川弘則
監 事	上	山崎久雄	北	杉山茂生	北	杉山茂生	相	久田公氣	相	久田公氣	相	久田公氣
	北	杉山茂生	置	佐々木 博	置	佐々木 博	北	杉山茂生	上	田村親雄	上	田村親雄
相談役							相	細川貞夫	相	細川貞夫	相	細川貞夫
会員数	14名		11名		11名		11名		10名		10名	

	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
役 職	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
会 長	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄	訓	岩渕文雄
副会長	置	佐々木 博	置	佐々木 博	置	佐々木 博	置	佐々木 博	置	佐々木 博
理 事	相	細川弘則	相	細川弘則	相	細川弘則	相	細川弘則	相	細川弘則
監 事	相	久田公氣	相	久田公氣	相	久田公氣	相	久田公氣	相	久田公氣
	上	田村親雄	上	田村親雄	上	田村親雄	上	田村親雄	上	田村親雄
相談役	相	細川貞夫	相	細川貞夫	相	細川貞夫	相	細川貞夫	相	細川貞夫
会員数	8名		9名		9名		9名		9名	

平成25年度

平成25年12月1～2日に北見産駒特別レースが帯広ばんえい競馬場で開催され、地域の生産馬の応援と家畜改良センター十勝牧場では農用馬の飼養管理の研修を行った。



十勝にて優良馬を見学

平成26年度

平成26年9月6～7日に開催された第16回北海道総合畜産共進会が開催され、訓子府町の林 茂氏から2頭が出品され、資質を競い合った。



全道各地より集結し序列を競う

平成27年度

平成27年10月28日にホクレン馬市場が音更町で開催され、全国の購買者が集結し当才馬や繁殖馬を念入りに下見し、競り落とされる。



多くの馬が十勝へ

平成28年度

平成28年10月25日にホクレン馬市場が釧路市で開催され、地域の生産馬が全国の購買者に落札される。



馬せりの様子

平成29年度

平成29年7月20～21日に第48回十勝総合畜産共進会（馬の部）が音更町で開催され、農用馬の資質向上に向けた研修会を行う。



各場の資質を競う

平成30年度

日本馬事協会の登録員と会員厩舎を巡回し、その年に生産された当才馬の血統登録や親馬の繁殖登録を行う。



馬の親子は仲良し

令和1年度

令和1年9月7～8日に第17回北海道総合畜産共進会が音更町で開催され、資質向上の研修と会員相互の親睦を図る。



優良馬

令和2年度

令和2年10月27日に釧路市でホクレン馬市場が開催され、全国各地の購買者が集結し、地域で生産された農用馬が高値で取引された。



全国から集まる購買者

令和3年度

当才馬の血統登録と親馬の繁殖登録を行うため、親子であることを確認する生産者。



仔馬の登録

令和4年度

ばんえい競馬出走経験のある実力馬が競走馬を引退し、繁殖馬として優秀な産駒生産のため全国へ旅立つ。



馬の旅立つ姿

きたみらいジュニアホルスタインクラブ

設 立 平成16年6月16日
会 員 数 31名
委 員 長 小山 勇樹

主なできごと

2013.04.22	第10回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2013.07.20	第10回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2013.07.29	カステラ作り実習
2013.08.03	管内ジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2013.09.28～29	2013北海道ホルスタインナショナルショウにて視察研修及び ジュニア酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加
2013.12.14	管内ジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2014.04.22	第11回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2014.05.09	ショウ出品のための毛刈り勉強会
2014.07.19	第11回きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2014.08.13	カステラ・調理パン作り実習
2014.09.27～28	第16回北海道総合畜産共進会にて視察研修及び ジュニア酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加
2014.12.13	管内ジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2015.04.21	第12回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2015.05.08	ショウ出品のための毛刈り勉強会
2015.07.18	第12回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2015.09.19～20	第17回北海道総合畜産共進会にて視察研修及び ジュニア酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加
2015.10.23～25	第14回全日本ホルスタイン共進会視察研修
2016.04.28	第13回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2016.05.13	ショウ出品のための毛刈り勉強会及びリードの手引き
2016.07.16	第13回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2016.09.24～25	2016北海道ホルスタインナショナルショウにて視察研修及び ジュニア酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加
2016.12.03	管内ジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2016.12.20	モーモークラブ農酪ッ娘とのチーズ作り
2017.04.13	第14回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2017.05.12	ショウ出品のための毛刈り勉強会及びリードの手引き
2017.07.15	第14回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2017.07.26	管内ジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2017.09.23～24	2017北海道ホルスタインナショナルショウにて視察研修及び ジュニア酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加
2017.12.16	モーモークラブ農酪ッ娘とのチーズ・バター・ホエーパン作り
2018.04.24	第15回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2018.07.21	第15回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2018.08.25	第68回北見管内総合畜産共進会にてジュニアカップ参加
2018.12.01	オホーツクジュニアホルスタインクラブ合同交流会
2018.12.25	カステラ・菓子パン作り
2019.04.02	第16回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2019.07.20	第16回JAきたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ参加
2019.08.23	第69回北見管内総合畜産共進会にてジュニアカップ参加
2019.09.28～29	第17回北海道総合畜産共進会にてジュニアカップ、リードマンコンテストに参加
2020.04.01	第17回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会 乳製品配布(バター)
2021.04.01	第18回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2021.12.21	乳製品配布(詰め合わせ)
2022.04.06	第19回きたみらいジュニアホルスタインクラブ通常総会
2022.09.23	2022北海道ホルスタインナショナルショウにて写真コンテストに参加

酪農後継者育成を目指して

きたみらいジュニアホルスタインクラブ
委員長 小山 勇樹

JAきたみらい設立20周年を迎えられました事に際しまして、心よりお祝い申し上げます。

日頃より当クラブに対しまして、JAをはじめ関係機関、会員の皆様並びに、会員の保護者の皆様には格別なるご指導ご鞭撻を賜りありがとうございます。

当クラブでは、酪農家の子供、もしくは酪農に興味のある子供で構成されています。他の生産組織とは異なり、将来を担う子供達が主役となり、楽しく学べるような様々な活動を行っています。

具体的な活動としては、牛乳を原料とした食品加工実習、共進会におけるリードマンコンテスト、写真コンテストへの参加、会員間の親睦会などです。特に共進会への参加では全道トップクラスの成果を挙げています。

その子供達が今後、酪農家後継者として、または酪農業界関係者として活躍してくればクラブとしての喜ばしい事ですし、当クラブ卒業生は実際に大いに活躍しています。

令和5年につきましては、新型コロナウイルスの5類引き下げに伴い、活動自粛が緩和されたことで例年以上の行事を企画しております。また、年々会員数が増えており、賑やかさが増してまいりました。

今後の「ジュニアホルスタインクラブ」の活動に期待と応援を寄せて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、JAきたみらいの益々のご発展とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



委員長 小山 勇樹



副委員長 大塚 陽太

役員一覧

役 職	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
委員長	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣
副委員長	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣	置	小山勇樹	置	小山勇樹	置	小山勇樹
監 事	北	山内 誠	上	有沢広宜	上	有沢広宜	上	有沢広宜	上	有沢広宜	上	有沢広宜
	上	有沢広宜	北	山内 誠	北	山内 誠	訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也
委 員												
	北	上野元一	北	上野元一	北	上野元一	北	山内 誠	北	山内 誠	北	山内 誠
			置	小山勇樹	置	小山勇樹	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明
			訓	浜野和弘	訓	浜野和弘	訓	浜野和弘	訓	浜野和弘	訓	浜野和弘
			訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也	上	平野裕美	上	平野裕美	上	平野裕美
											訓	大塚陽太
会員数	13名		12名		18名		18名		17名		19名	

役 職	令和1年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名	地区	氏 名
委員長	訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也	訓	稲辺祐也	置	小山勇樹
副委員長	置	小山勇樹	置	小山勇樹	置	小山勇樹	置	小山勇樹	訓	大塚陽太
監 事	訓	大塚陽太	訓	大塚陽太	訓	大塚陽太	訓	大塚陽太	訓	稲辺祐也
	上	有沢広宜	上	有沢広宜	上	有沢広宜	上	有沢広宜	置	佐藤 猛
委 員										
	北	山内 誠	北	山内 誠	北	山内 誠	北	山内 誠	北	山内 誠
	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明	訓	渡辺重明
	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣	上	神田典廣
	訓	浜野和弘	訓	浜野和弘	置	片桐敏史	置	片桐敏史	置	片桐敏史
	上	平野裕美							北	荻野清彦
会員数	16名		18名		17名		24名		31名	

平成25年度

訓子府町の農業交流センターでカステラ作りを体験。きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ、全道共進会にて酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加した。



カステラ作りの様子

平成26年度

訓子府町の農業交流センターでカステラ・パン作りを体験。きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウ、全道共進会にて酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加した。



会員が作った焼きたてのパン

平成27年度

きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウに参加した。全道共進会にて酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加した。また、全日本ホルスタイン共進会を視察研修の場とし、6名が参加した。



会員の全道共進会の様子

平成28年度

「モーモークラブ農酪ッ娘」の方々よりチーズの作り方を習った。きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウに参加し、全道共進会にて酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加し、「ジュニアカップチャンピオン」、「ベストリードマン」に輝いた。



会員による乳製品作り

平成29年度

「モーモークラブ農酪ッ娘」の方々よりチーズ、バター、ホエーパンの作り方を習った。きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウに参加し、全道共進会にて酪農教室、リードマンコンテスト、写真コンテスト、ジュニアカップに参加した。



会員によるチーズ作り

平成30年度

訓子府町の農業交流センターでカステラ・菓子パン作りを体験。きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウに参加し、北見管内総合家畜共進会にてジュニアカップに参加した。また、全道共進会については平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の影響により中止となり、写真コンテストは後日ホルスタイン通信にて結果が発表され、1名が金賞1席に輝いた。



会員同士の交流を深めたパン作りの様子

令和1年度

きたみらい乳牛共進会にてショウマンショウに参加。北見管内総合家畜共進会において、「ジュニアカップチャンピオン」を受賞。また、北海道家畜総合共進会においては、「ベストリードマン」、「ジュニアチャンピオン」に輝いた。



会員の全道共進会の様子

令和2年度

新型コロナウイルス感染拡大に伴い緊急事態宣言が発動され、本クラブにおいても例年行っていた各種活動については自粛となり、思うような活動を行えない一年となった。



牛舎で休む牛

令和3年度

新型コロナウイルスの終息の兆しが見えず、本クラブにおいても各種活動の自粛を強いられた。そのような状況の中で、例年行っている「乳製品加工実習」を牛乳消費拡大運動へ変更し、乳製品の配布を行った。



消費拡大運動で配布した乳製品のセット

令和4年度

新型コロナウイルスによる規制が徐々に緩和されたことから、各種共進会についても規模縮小ながら開催され、2022オール北海道写真コンテストに1名が出展し、銀賞1席を受賞した。また、行事開催が可能となったことから、本クラブへの加入推進を積極的に行い、新たに7名が加入した。



きたみらい共進会の様子

